



日伸産業株式会社

×

東福岡高等学校

フィールドスタディ事例

株式会社マイナビ Locus運営事務局

東福岡高等学校

フィールドスタディ実施概要

実施日：2024年3月12日10時～12時

参加生徒数：2年生 約530名

参画企業数：12社

概要



●日伸産業株式会社様について

業種：商社

従業員：54名 ※ 2024年4月時点

●フィールドスタディ概要

実施日：2024年3月12日

参加生徒数：39名

実施形式：出張講義型

企業スタッフ数：2名

キーワード：まちづくり・食・ものづくり

●今回フィールドスタディ受入を決めた理由

・高校生との接点創出と社会貢献

授業の中で高校生と接点を持つことで、生徒から「こういう会社が地元にあったな」と気になってもらえるポイントになればと思い、受け入れを行っている。

何度かフィールドスタディを実施しているが、生徒の皆さんが事前にたくさん勉強してくてる高校もあり、フィールドスタディを行う企業側も新たに気づかされることがある。

また、社会貢献の一環として、何か地元の高校生のためになればという思いもあって、参加をしている。

実施スケジュール



アイスブレイク 15分	日伸産業 について 15分	ワーク 15分	休憩 10分	グループ発表 30分	フィード バック 10分
----------------	---------------------	------------	-----------	---------------	--------------------



実施内容詳細

●アイスブレイク

- ・あだ名をネームプレートに書く
- ・自己紹介を四つ切の紙に書く
 - ①クラス
 - ②氏名+ニックネーム
 - ③実は私○○です
 - ④はまっていること

 企業担当者も生徒も今日の講義内では氏名でなくニックネームで呼ぶことで、心理的な距離感が縮まった

 自己紹介ではポジティブワードを意識して書かせ、クラス全体が明るい雰囲気◎

●日伸産業について

企業の概要や取り扱い商材、強み、社会とのかかわりを写真や数値データを用いながら説明。

 印象に残るよう、数値を用いて説明◎
「30年残る会社は15%しかない中で当社は100年弱続いています」

 定期的にクイズや質問を生徒に振り、生徒を巻き込んだ講義をしていた

 実際に扱っている商材の実物を持参し、生徒に触ってもらうことで教室での授業でもリアルに体感できる学びとなっていた

グループワーク：推しポイントを見つけよう



●概要

日伸産業の「推しポイント」を生徒それぞれで考え、グループ内で意見をまとめて発表する。

※1グループ5名でグループ分け

個人ワーク



グループワーク

※社員がグループを回り
ワークをサポート



発表



フィードバック



●企業の声

今回初めてワークを取り入れてみて、ワークの重要性を感じた。

今まで実施をしてただの企業紹介として終わってしまうこともあったが、**ワークを取り入れることで生徒自身が能動的に考えるきっかけが生まれたと感じている。**

課題点としては、発表がどうしても短文になってしまう生徒がいたため、**企業側は発表が苦手な生徒へのサポートをする必要がある**と感じた。たとえば、具体的に考えてほしいポイントを指定してあげる（推しポイントだけでなく、そのように考えた理由も3つも考えてもらうなど）とより有意義な学びに繋がったかもしれない。

魅力ポイント

Locus運営事務局
担当者から見た魅力をご紹介します！



●教室全体を巻き込んだフィールドスタディ

- ・一方的な講義にならないよう生徒への「問いかけ」を意識◎
- ・「どうしてそう思ったの？」など生徒の考えを深める問いかけを入れていた
- ・質疑応答では企業についてに限らず、社会人としてご担当者様の経験談もお話いただき、生徒の関心を集めていた
- ・その場にいた先生にも話を振って経験談をお話しいただくなど、教室全体を巻き込んだ進行が印象的なフィールドスタディ◎

●生徒の声

「普段関わることの少ない社会人の方々から話を聞くことができ良い経験になった。」
「フレンドリーでエピソードも面白く、話が聞けるのが楽しかった！」
「社会人ならではの経験を聞くことができた。今日の学びを活かし、就活や仕事を頑張りたい。」

 企業で働く人の経験談が生徒の関心を集めていた。出張講義型は一方的な講義になりがちだが、問いかけを入れる、生徒の関心を引く経験談を入れるなど、巻き込む工夫を上手に取り入れ、活気あふれるフィールドスタディとなっていた◎